

## コロナ禍での部活動

高知県立伊野商業高等学校  
軽音楽部顧問 谷内 康浩

2020年度の部活動は、前年度末から続くコロナ禍でのスタートでした。授業だけでなく部活動もその影響を受けました。運動部は県体やそれにつながる高校総体など大きな目標としてきた大会が中止となりました。文化部も同じように、特に軽音楽部はライブハウスがクラスター源との報道もあり、部活動の運営には県教委の指示以上に細心の注意が必要でした。校内の練習室（スタジオ）には換気装置はあるものの、防音のため閉鎖空間であり、感染防止のためボーカルは禁止し、楽器の練習のみとするなど、かなり制限された中での活動を余儀なくされました。

活動の発表の場も、例年通りとはいきませんでした。県高校文化連盟軽音楽専門部主催の第19回軽音楽演奏会軽音祭（8月30日）、第8回軽音楽発表会（11月15日）は、2週間前検温とともに、出演者のみの無観客開催、椅子に座って聴く、会場の換気など考えられる対策を講じながら実施されましたが、第19回軽音楽演奏会軽音祭（12月27日）は、県内の感染状況を踏まえ中止となりました。制限された練習の中でも、二つの大会でそれぞれ3年生、2年生が「優秀賞」を受賞したことは大きな励みになりました。2020こうち総文は、全国レベルの演奏を直接聴き、交流できる場でしたが、Web開催となりました。

隔年開催の「伊野商デパート」がコロナ禍で中止となり、同時に開催されていた文化部発表会もできなくなりました。生徒からは、日頃の練習成果を発表する「校内演奏会」を開催したいという要望が出されました。今はどういう状態なのか？どうすれば開催できるのか？開催に理解が得られるのか？を生徒自身で考える機会になりました。体育館1階の施設を使い、感染防止のため、演奏スペースと観客スペースの間隔を空ける、換気に気をつけるなど、考えられる対策をとり、11月12日に実施できました。1年生にとっては、はじめて人前で演奏し、2・3年生の演奏を聴くことができ、軽音楽部としての一体感を感じる貴重な時間を過ごすことができました。何よりも多くの同級生たちや教職員に演奏を聴けてもらったことが、励みと自信につながったようです。



軽音楽部は、グループ（バンド）のメンバーが協力してリズム、メロディー、ハーモニーを奏するため、日々の練習ばかりでなく人間関係も大切です。誰もが経験したことのないコロナ禍は、その難しさを露わにしました。生徒の感想には、「活動が制限され、練習時間が足りなかった」「演奏を聴いてもらう機会が少なく悲しい」とともに、「（集まる機会が減り）部員どうしのコミュニケーションがとれなくて寂しい」「協調性の大切さを知った」「グループって難しい」などの声もありました。特に1年生にとっては、先輩たちや他校の演奏を直接聴く機会が減り、年度初めの休校や活動の制限もあって、人間関係づくりがスムーズにすすまず、退部やグループ内のトラブルも例年以上に多かったように感じます。

感染防止と活動の両立の模索は続きますが、このコロナ禍で、授業も部活動も人の五感を使う対面（ライブ）が一番、Web（オンライン）などは代替でしかないと感じました。